資治通鑑　第 135 巻

令和 3 年 10 月 18 日

【齊紀一】　起屠維協洽，盡昭陽大淵獻，凡五年。

■南宋、●北魏、続国訳漢文大成．経子史部 第 8 巻 122p

太祖高皇帝建元元年（己未，４７９年）（斉の太祖、諱は道成、字は紹伯）

【蕭道成の簒奪】

■［蕭道成の支配新体制］春，正月，甲辰（２日），江州刺史の**蕭嶷**（蕭道成の次男）を以て都督荊、湘等八州諸軍事、荊州刺史と為し，尚書左僕射の**王延之**を江州刺史と為し，安南長史の**蕭子良**（蕭道成の孫）を督會稽等五郡諸軍事、會稽太守と為す。

■初め，**沈攸之**が衆を聚めんと欲し，民の相い告げるを開く，士民の坐して役を執る者甚だ衆なり，**嶷**の鎮に至るや，一日に三千餘人を罷遣（はけん）す。府州の儀物，務めて儉約を存し，刑は輕く斂は薄く，所部は大いに悦ぶ。

■辛亥（９日），竟陵（蕭道成は爵を竟陵郡公に進む）の世子の**賾**を以て尚書僕射と為し，中軍大將軍、開府儀同三司に進號す。(8-123p)

■［道成の禅譲誘導戦略と謝朏］太傅の**道成**は**謝朏**の重名有るを以て，必ず引いて佐命に參ぜしめんと欲し，以て左長史と為す。嘗て酒を置きて與に魏、晉の故事を論じ，因りて曰く、

「**石苞**は早く晉の**文**（王）に勸めず，**文**死して方（はじ）めて慟哭し（「基業かくの如くなるに人臣を以て終わるか」），之れを**馮異**（光武に進めて皇位に就けた）に方（くら）べれば，機を知るに非らざる也。」（暗に廻りからの推戴を望む）（石苞=司馬昭が帝位に就かずに亡くなった直後、陳騫と共に元帝に対し「（魏の）暦数（寿命）は既に尽き、天命がございます」と迫り、暗に司馬氏への禅譲を促し同年、曹奐からの禅譲を受け司馬炎が即位すると、大司馬・侍中・楽陵郡公をも得た。出自が貧しく揶揄され、謀反の汚名を着るも謹慎して復活）

朏は曰く、

「晉文（司馬昭）は世々魏の寶（しつ）に事（つか）え，必ず將に身は北面に終わらんとする。借りにて魏が康（続は唐）、虞の故事に依ら使むとも，亦た當に三たび讓りて彌々（いよいよ）高し。」

道成は悦ばず。甲寅（１２日），**朏**を以て侍中と為し，更に**王儉**を以て左長史と為す。

■丙辰（１４日），給事黄門侍郎の**蕭長懋**（賾の長子）を以て雍州刺史と為す。

■二月，丙子（４日），邵陵の殤王の**友**は卒す。

●辛巳（９日），魏の**太皇太后**及び**魏主**は代郡の溫泉に如く。

■甲午（２２日），詔して前命（前巻前年）を申し，太傅の贊拜は名いわせざるを命じる。

●己亥（２７日），魏の**太皇太后**及び**魏主**は西宮（太祖が天賜元年に築く所）に如く。

■三月，癸卯朔（１日），日に之れ食有り。

■［蕭道成に九錫を加える］甲辰（２日），太傅を以て相國と為し，百揆を總べしめ，十郡（青州の齊郡、徐州の梁郡、南徐州の蘭陵・魯郡・琅邪・東海・晉陵・義興、揚州の呉郡・会稽）に封じ，齊公と為し，九錫を加える。其の驃騎大將軍、揚州牧、南徐州刺史は故の如し。乙巳（３日），詔して齊國の官爵禮儀は，並んで天朝に仿（なら）わしむ。丙午（４日），世子の**賾**を以て南豫州刺史を領せしむ。

■［楊運長と臨川王の綽の誅殺］**楊運長**は宜城郡（宜城郡主となる、前巻宋昇明元年にあり）を去りて家に還る，**齊公**は人を遣わして之を殺す。凌源令の**潘智**は**運長**と厚く善し。臨川王の**綽**は，**義慶**之孫也。**綽**は腹心

の**陳言贇**を遣わして**智**を說いて曰わしむ、
「君は先帝の舊人なり，身は是れ宗室の近屬なり，此くの如き形勢には，豈に久しく全くすを得んや！若し內外を招合せば，計るに多く從う者有らん。台城の內人は常に此の心有れども，正に（続はなし）人の意を建てる無きを苦しむ耳！」
智は即ち以て**齊公**に告げる。庚戌（８日），**綽**の兄弟及び共黨を與に誅す。
■甲寅（１２日），**齊公**は策命を受け，其の境內に赦し，石頭を以て**世子**の宮と為し，一に東宮の如し。**褚淵**は**何曾**が魏の司徒より晉の丞相に為るの故事を引きて，齊の官と為る（齊王の皇帝即位の意味）を求め，**齊公**は許さず。**王儉**を以て齊の尚書右僕射と為し，吏部を領せしむ。**儉**は時に年二十八。
■ 夏、四月、壬申（１日）朔、齋公の爵を進めて王と為し、封十郡（徐州の南梁・陳・潁川・陳留、南兗州の肝胎・山陽・秦・廣陵・海陵・南沛）を增す。（続により補充）
■甲戌（３日），武陵王の**贇**は卒す，疾に非ざる也（誅殺の暗示か!）。
■丙戌（１５日），**齊王**に殊に禮を加え，**世子**を進めて**太子**と為す。
■［皇帝の家に生まれたくない］辛卯（２０日），宋の**順帝**は詔を下してして位を齊に禪る。壬辰（２１日），**帝**は當に軒に臨むに，出ずるを肯ぜず，佛蓋（宮中の佛屋）之下に逃げ，(8-124p)**王敬則**は殿庭に兵を勒して，板の輿を以て入りて**帝**を迎える。**太后**は懼れ，自ら閹人（宦官）を帥いて之を索め得，**敬則**は啟譬して出で令め，引いて車に升ら令む。**帝**は淚を收め**敬則**に謂って曰く、
「殺さ見んと欲す乎？」
敬則は曰く、
「出でて別宮に居る耳。官（宋朝）は先に司馬の家を取る、亦た此くの如し。」
帝は泣き而して指を彈じて曰く、
「願はくは後の身の世世は復た天王の家に生まれる勿かれ！」
宮中は皆な哭す。**帝**は**敬則**の手を拍ちて曰く、
「必ず慮を過ぎる無かれ，當に輔國（敬則は輔國將軍）に十萬錢を餉るべし。」
是の日，百僚は位に陪す。侍中の**謝朏**は直に在り，當に璽綬を解くべきに，陽りて知らざると為し（わざと知らない真似をする），曰く、
「何んぞ公事有るや？」
傳詔（中書舍人に属し、出入りに詔旨を宣傳す）は云う、
「璽綬を解いて齊王に授けよ。」
朏は曰く、
「齊に自ら應に侍中有るべし。」
乃ち枕を引いて臥す。傳詔は懼れ，**朏**をして疾と稱さ使め，兼人（侍中を兼ねる人）を取らんと欲し，**朏**は曰く、
「我は疾無し，何んぞ道う所や！」
遂に朝服して步いて東掖門を出で，仍ち車に登りて宅に還る。乃ち**王儉**を以て侍中と為し，璽綬を解かしむ。禮は畢わり，**帝**は畫輪車（車輪に絵を描いた車）に乘り，東掖門を出て東邸に就き，問う、
「今日は何んぞ鼓吹を奏せずや？」
左右に應ずる者有る莫し。右光祿大夫の**王琨**は，**華**（元嘉の頃の政治家）之從父弟也，晉の世に在りて已に郎中為り，是に至り，車の瀨尾（車の塵を避けるために懸ける）を攀じりて慟哭して曰く、

「人は壽を以て歡びと為し，老臣は壽を以て戚と為す。既に螻蟻（虫けら）を先驅する（先に死ねず）能わず，乃ち復た頻りに此くの事を見るや！」
嗚咽して自ら勝たず，百官は雨あられと泣く。

■［太傅蕭道成即位］司空兼太保の**褚淵**等は璽綬を奉じ，百官を帥いて齊の宮に詣りて勸進す。**王**は辭して讓りて未だ受けず。**淵**の從弟の前安成太守の**炤**は**淵**の子の**賁**に謂って曰く、
「司空は今日何こに在るや？」
賁は曰く、
「璽綬を奉じて齊の大司馬の門に在り。」
炤は召いて曰く、
「知らず、汝の家の司空は將に一家の物を一家に與うるに，亦た復た何を謂うか！」
甲午（２３日），**王**は南郊に於いて**皇帝**に即位す。宮に還り，大赦し，改元（建元）す。宋の**順帝**を奉じて汝陰王と為し，優崇之禮は，皆な宋の初めに仿う。丹楊（続は丹陽、安徽省蕪湖道當塗県、現・馬鞍山市博望区）に宮を築き，兵を置いて之を守衛す。宋の神主を汝陰の廟に遷し，諸王は皆な降りて公と為す、齊室に力を宣ぶるに非らざるより，餘は皆な國を除かれ，獨り南康、華容、萍鄉（江西省盧陵道萍鄉県の東、現・萍鄉市）の三國を置き，以て**劉穆之**、**王弘**、**何無忌**之後を奉じ，國を除かるる者は凡そ百二十人。二台（宋台・斉台）の官僚は，任に依りて職を攝り，名號は同じからず、員限盈（滿つる）長（人数の余り）なる者は，別に更に詳しく議す。
褚淵を以て司徒と為す。賓客の賀する者は座に滿ち，**褚炤**は歎じて曰く、
「**彥回**（褚淵の字）は少きとき名行を立て，何ぞ意わん猖（狂い）を披って此に至らんとは！門戸は幸ならず，乃ち復た今日之拜有り。**彥回**をして中書郎を作り而して死せ使めば，(8-125p)當に一名士為るべからず邪！名德は昌かならず，用（続は乃）に復た期頤（百年の長寿）之壽の有らんや！」
淵は固辭して拜せず。
■［謝朏の排除］奉朝請（朝會請召を奉ずるのみの職任無し）の河東の**裴顒**は上表して，**帝**の惡を過ぎるを數め，冠を掛けて徑に去る。**帝**は怒り，之を殺す。太子の**賾**は**謝朏**を殺さんと請い，**帝**は曰く、
「之を殺せば遂に其の名は成さん，正に應に之を度の外に容れるべき耳。」
之久しく，事に因りて家に於いて廢す。
■［儒者の言は萬世の寶］**帝**は前撫軍行參軍の沛國の劉瓛に政を為すを問い，對えて曰く、
「政は《孝經》に在り。凡そ宋氏の亡ぶる所以は，**陛下**の得る所以の者は，皆な是れ也。**陛下**は若し前車之失を戒め，之に加えて寬厚を以てせば，危しと雖も安かる可し。若し其の轍を覆すを循わば，安しと雖も必ず危うき矣！」
帝は歎じて曰く、
「儒者之言は，萬世の寶とする可し！」
●丙申（２５日），**魏主**は崞山に如く。
■丁酉（２６日），太子の詹事の**張緒**を以て中書令と為し，齊國の左衛將軍の**陳顯達**を中護軍と為し，右衛將軍の**李安民**を中領軍と為す。**緒**は，**岱**之兄の子也。
■戊戌（２７日），荊州刺史の**嶷**を以て尚書令、驃騎大將軍、開府儀同三司、揚州刺史と為す。
■［群臣の様々な提言］［交州は攻めるべからず］**帝**は群臣に命じて各々得失を言わしむ。淮南、宣城

二郡太守の**劉善明**（江左は淮南郡を宜城の郡界に僑立し、二郡太守となる）は，宋氏の大明、泰始以來の諸々の苛政や細制を除き，以て簡易を崇（たっと）ばんと請う。又た以て為す、

「交州は險遠にして，宋末の政は苛にして，遂に怨叛（宋明帝泰始四年の李長の乱）に至れり。今大化は創始し，宜しく恩德を以て懷くべし。且つ彼の土の出す所は，唯だ珠寶有るのみ，實に聖朝之須（もち）いる所の急には非ず。討伐之事は，謂いて宜しく且（しばら）く停めるべし。」

■<u>［学問の奨励と人材登用］</u>給事黄門郎の清河の**崔祖思**は亦た上言して，以て為す、

「人は學ばざれば則ち道を知らず，此の悖（はい）（乱れ）逆禍亂の由って生ずる所也。今無員之官（員外の官）は，空しく祿秩（続は祿力）を受け，民財を凋（ちょう）（衰える）耗す。宜しく文武の二學を開き，台（続は臺）、府、州、國の限外之人に課し、各々の樂しむ所に從いて，方（道）に依りて業を習はしめ，若し廢惰する者有れば，故郡に遣り還すべし。經藝優殊の者は，待つに以て次とせず。又た，今陛下は（続は躬（みずか）ら）節儉を履むと雖も，而るに群下は猶ほ安く侈靡（奢侈）に習う。宜しく朝士之約素清修なる者を褒めて進め，其の驕奢荒淫なる者を貶とし退ければ，則ち風俗は移す可からん矣。」

■<u>［地方分権の度合い］</u>宋の元嘉之世，凡そ事は皆な成を郡縣に責める。**世祖**の徵求は急速にして，郡縣の遲れ緩むと以てし，始めて台使を遣わして之を督す。是より使者の在る所は旁午（ぼうご）（入り乱れ）し，競いて威福を作（な）し，私を營んで賂を納め，公私は勞擾す。會稽太守の聞喜公の**子良**は上表して其の弊を極陳し，以て為す、

「台は求須する有るに，但だ明らかに詔敕を下し，之が期會と為せば，則ち人は自ら竭（つく）するを思う。若し稽遲（けいち）（遲延滯留）する有れば，自ら糾坐之科に依らん。今台使は盈（滿）湊すると雖も，(8-126p)取して正屬の辦ずる所を取るに會して，徒らに相い疑い憤り，反って更に淹懈（淹久懈怠）す，宜しく悉く台使を停むべし。」

■<u>［王の法の刷新］</u>員外散騎郎の**劉思效**は上言す、

「宋は大明より以來，漸（ようや）く凋弊を見，徵賦（賦役、税金）は加える有りて而して天府（天子の府藏）は尤も貧す。小民は嗷嗷として，殆ど生意無し。而して貴族富室は，侈麗を以て相い高く，乃ち山澤之民に至りては，敢えて其の水草を採食せず。**陛下**は宜しく王度（王の法）を一新し，其の失を革正すべし。」

上は皆な褒賞を加え，或いは表を以て外に付け，有司をして詳しく宜しき所を擇（えら）ば使め，奏して之を行わしむ。己亥（２８日），詔して、

「二宮の諸王（上宮の皇子達と東宮の孫達）は，悉く屯邸を營立して，山湖を封略するを得ざらしむ。」

●**魏主**は平城に還る。

●<u>［魏の不法粛正］</u>魏の秦州刺史の**尉洛侯**、雍州刺史の宜都王の**目辰**、長安の鎮將の**陳提**等は皆な貪殘不法に坐して，**洛侯**、**目辰**は伏して誅し，**提**は邊に徙す。

又た詔するを以て、

「候官（太祖の置いた監察官）は千數あるも，重罪は賄（まいな）いを受けて列せず，輕罪は毛を吹きて髮擧（続は撥擧）する，宜しく悉く之を罷（や）むべし。」

更めて謹直なる者の數百人を置き，街衢（がいすい）（市街）を防邏せ使め，喧（けん）（喧しい）斗（続は鬪）するを執りて而して已（のみ）。是れより吏民は始めて業を安んじるを得る。

■<u>［將帥は部曲の制限］</u>泰始より以來，內外は虞（うれい）多く，將帥は各々部曲を募り，屯して建康に聚る。**李安民**は上表して，以て為す、

「淮北の常備に非らざるより外は，餘軍は悉く皆な輸（うつ）し遣わすべし。若し親近の宜しく隨身を立つべき

者は，人數の限りて聽すべし。」
上は之に從う。五月，辛亥（１０日），詔して衆募を斷つ。
■［**褚淵、王儉は世族國華**］壬子（１１日），**上**は佐命之功を賞して，**褚淵**、**王儉**等を進めて爵、戸を増し各々差有り。處士の**何點**は人に謂って曰く、
「我は《齊書》を作りて已に竟わり，贊に云う、『**淵**は既に世族，**儉**は亦た國の華。舅氏に賴らず，遑ありて國家を恤る！』」
點は，**尚之**（太祖世祖の時に貴顯なり）之孫也。**淵**の母は宋の**始安公主**にて，**吳郡公主**の繼母なり。又た**巴西公主**に尚（尊ぶ、婿となること）す。**儉**の母は**武康公主**なり。又た**陽羨公主**に尚す。故に**點**の云うは然りとす。
■［**宋順帝らの大誅殺**］己未（１８日），或るひとは馬を走らせて**汝陰王**（宋の順帝）之門を過ぐ，衛士は亂を為す者有るを恐れて奔り入りて王を殺し，而して疾を以て聞す，**上**は罪とせず而して之を賞す。辛酉（２０日），宋の宗室の陰安公の**燮**等を殺し，少長と無く皆な死す。前豫州刺史の**劉澄之**は，**遵考**（128 卷孝武帝孝建二年）之子也，**褚淵**と善し，**淵**は之が為に固く請いて曰く、
「**澄之**の兄弟は武ならず，且つ劉宗に於いて又た疏なり。」
故に**遵考**之族は獨り免るを得る。
■丙寅（２５日），**皇考**を追尊して**宣皇帝**と曰い，**皇妣陳氏**を**孝皇后**と曰う。
■丁卯（２６日），皇子の**鈞**を封じて衡陽王と為す。**(8-127p)**
■［**崇祖を豫州刺史として北虜に備える**］**上**は兗州刺史の**垣崇祖**に謂って曰く、
「**吾**は新たに天下を得，索虜（南朝側から北朝を蔑視）は必ず**劉昶**を納れるを以て辭と為し，邊鄙を侵犯す。壽陽は當に虜之沖（続は衝）にして，卿に非らざれば以て此の虜を制する無き也。」
乃ち**崇祖**を徙して豫州刺史と為す。
■六月，丙子（６日），游撃將軍の**姚道和**を誅す，其の**沈攸之**に貳せし（前巻順帝昇明元年）を以て也。
■甲子（甲申なら１４日），太子の**賧**を立てて**皇太子**と為す。皇子の**嶷**を豫章王と為し，**映**を臨川王と為し，**晃**を安成王と為し，**鏘**は鄱陽王と為し，**鑠**を桂陽王と為し，**鑒**を廣陵王と為す。皇孫の**長懋（458-493 文恵太子）**を南郡王と為す。
■乙酉（１５日），宋の**順帝**（汝陰王）を遂寧陵に葬す。
■［**五人組の中止**］**帝**は建康の居民の舛雜（混じり雜）にして，奸盜多く，符伍（五人組）を立てて以て相い檢括（点検）せんと欲す，右僕射王の**儉**は諫めて曰く、
「京師之地は，四方は輻湊し，必らず符を持つ也，事に於いて既に煩しく，理は曠がらざると成る。**謝安**の謂う所の『爾らずんば何を以て京師と為すや』也。」
乃ち止む。

■［**沈煥は交州刺史の赴任拒否、特に許す**］初め，交州刺史の**李長仁**は卒し，從弟の**叔獻**は代わりて州事を領し，號令未だ行わざるを以て，遣使して宋に刺史を求める。宋は南海太守の**沈煥**を以て交州刺史と為し，**叔獻**を以て**煥**の寧遠司馬、武平、新昌二郡太守と為す。**叔獻**は既に朝命を得るや，人情は服從し，遂に兵を發して險を守り，**煥**を納れず。**煥**は鬱林に停まり，病にて卒す。
■秋，七月，丁未（７日），詔して曰く、
「交趾は、比景（今の占城の北境）は獨り書朔を隔て（書いた命令書で朔を受ける事を拒否），斯れ乃ち前運は方に季

にして，因りて遂往に迷う。宜しく曲げて交州を赦し，即ち**叔獻**を以て刺史と為し，南土を撫安せん。」

●魏の葭蘆（甘粛省渭川道武都県、現・隴南市武都区）鎮主の**楊廣香**は降を請い，丙辰（１６日），**廣香**を以て沙州（唐の利州景谷県、四川省嘉陵道昭化県西北、現・広元市元壩区昭化鎮）刺史と為す。

●八月，乙亥（６日），**魏主**は方山（平城の北）に如く。丁丑（８日），宮に還る。

■［北魏に対して警戒体制］**上**は魏が將に入寇せんとするを聞き，九月，乙巳（６日），復た豫章王の**嶷**を以て荊、湘二州刺史と為し，都督は故の如し。臨川王の**映**を揚州刺史と為す。丙午（７日），司空の**褚淵**を以て尚書令を領さしむ。

●壬子（１３日），魏は侍中、司徒、東陽王の**丕**を以て太尉と為し，侍中、尚書右僕射の**陳建**を司徒，侍中と為し、尚書の代人の**苟頹**（魏書官氏志に神元の時に餘部の内人諸姓に若干氏あり、後に改めて苟氏）を司空と為す。

●己未（２０日），魏の安樂厲王の**長樂**は謀反し，死を賜る。庚申（２１日），魏の隴西宣王の**源賀**は卒す。**冬，十月**，己巳朔（１日），魏は大赦す。(8-128p)

■癸未（１５日），汝陰の太妃の**王氏**（宋明帝の王皇后）は卒し，謚して**宋恭皇后**と曰う。

■［梁州刺史の范柏年の複雑な動きと誅殺］初め，晉壽の民の**李烏奴**は白水（四川省から出た白水河は甘粛省渭川道に至りて東川河になり、東北に清江に合流して東南に白水江に入る）氏の**楊成**等と梁州を寇し，梁州刺史の**范柏年**は說きて**烏奴**を降し，**楊成**等を撃ち，之を破る。**沈攸之**の事（前巻宋順帝昇明元年）起こるに及び，**柏年**は兵を遣わして魏興に出，聲して、

「入りて援けん」

と雲い，實は形勢を候望す。事平らぎ，朝廷は**王玄邈**を遣わして之に代える。**柏年**と**烏奴**に詔して俱に下らしめ，**烏奴**は**柏年**に代を受けざらんことを勸む。**柏年**は計りて未だ決せず，**玄邈**は已に至る。**柏年**は乃ち**烏奴**を漢中に留め，還りて魏興に至り，盤桓（ぐずぐず）して進まず。左衛率の豫章の**胡諧之**は嘗て**柏年**に就きて馬を求める，**柏年**は曰く、

「馬は狗に非らざる也，安んぞ能く已む無き之求めに應じん！」

使者は待つこと甚だ薄し。使者は還り，**諧之**は語りて曰く、

「**柏年**は云う：『**胡諧之**は何物の狗や！求める所厭(あく)無し！』」

諧之は之を恨み，**上**に譖して曰く、

「**柏年**は險を恃みて衆を聚め，一州を專據せんと欲する。」

上は雍州刺史の南郡王の**長懋**をして**柏年**を誘い，啟して府の長史と為さ使む。**柏年**は襄陽に至り，**上**は問わざらんことを欲し，**諧之**は曰く、

「虎を見て格(とら)え得，而して縦ちて山に上らしむる乎？」

甲午（２６日），**柏年**に死を賜う。**李烏奴**は叛して氐に入り，**楊文弘**に依り，氐兵千餘人を引いて梁州を寇し，白馬戍（陝西省漢中道沔県の西北の陽平關、現・漢中市勉県白馬河匯入）を陷す。**王玄邈**は人をして詐り降りて**烏奴**を誘わ使め，**烏奴**は輕兵にして州城を襲い，**玄邈**は伏兵にて邀撃し，大いに之を破り，**烏奴**は挺身して復た走りて氐に入る。

■［玄邈と道成の因縁］初め，**玄邈**は青州刺史為(た)り，**上**は淮陰に在り，宋の**太宗**の疑う所と為り（132 巻泰始六年），北の魏に附かんと欲し，書を遣わして**玄邈**に結ぶ，**玄邈**の長史の清河の**房叔安**は曰く、

「將軍は方州之重きに居り，故無くして忠孝を舉げ而して之を棄てれば，三齊（項羽が齋の地を三分、後にあわせて三齊とす）之土は，寧ろ東海を蹈み而して死する耳，敢えて將軍に隨わざる也！」

玄邈は乃ち**上**の書に答えず。及ち州を罷めて還り，淮陰に至り，嚴軍して直ちに過ぎる。建康に至り，**太宗**に啟し、

「上に異志有り」

と稱す。**上**が驃騎に為るに（蒼梧王誅殺後に進む）及び，引いて司馬と為す，**玄邈**は甚だ懼れ，而して**上**は之に待すること初めの如し。**烏奴**を敗るに及び，**上**は曰く、

「**玄邈**は果たして吾が意遇に負（そむか）ざる也。」

叔安は寧蜀（宋の永初中に廣漢を分けて郡とす）太守と為り，**上**は其の忠正を賞し，用（も）って梁州と為さんと欲すも，病に會いて卒す。

■十一月，辛亥（１３日），皇太子妃の**斐氏**を立てる。

●■［**魏は大挙して南進するも留まる**］癸丑（１５日），魏は假梁郡の**王嘉**を遣わして二將を督して淮陰に出で，隴西公の**琛**をして三將を督して廣陵に出で，河東公の**薛虎子**をして三將を督して壽陽を出で，丹楊（續は丹陽）王の**劉昶**（景和年間に魏に奔る）を奉じて入寇せしむる。舊業を克復すれば**昶**を許し，江南を世々胙（そ）（神籬、ひもろぎ、代々世襲）し，以て魏の籓を稱せんと。蠻酋の桓誕（かんたん）（宋の明帝泰豫元年に魏に降る）は前驅に為らんと請い，**誕**を以て南征西道大都督と為す。義陽の民の**謝天蓋**は自ら司州刺史と稱し，州を以て魏に附けんと欲し，魏の樂陵（比陽、河南省汝陽道泌陽県、現・駐馬店市泌陽県）の鎮將の**韋珍**は兵を引いて淮を渡りて應接す。豫章王の**嶷**は中兵參軍の**蕭惠朗**を遣わして二千人を將して，司州刺史の**蕭景先**を助けて**天蓋**，**韋珍**を討たしめ七千餘戸を略して而して去る。**景先**は，**上**之從子也。南兗州刺史の**王敬則**は魏が將に淮を濟らんとするを聞き，鎮を委（す）てて建康に還り，士民は驚いて散り，既にして而して魏は竟（つい）に至らず。**上**は其の功臣なるを以て，問わず。

■［**齋の遠交近攻策で柔然と結ぶ**］**上**之宋を輔する也，驍騎將軍の**王洪範**を遣わして柔然に使いし，與に共に魏を攻めんと約せしむ。**洪範**は蜀より吐谷渾に出で，西域を歷て，乃ち達するを得る。是に至り，柔然の十餘萬騎は魏を寇し，塞上に至り而して還る。

●是の歲，魏は中書監の**高允**に詔して律令を議定せしむ。**允**は老篤しと雖も，而して志識は衰えず。詔して**允**の家の貧しく養うに薄きを以て，樂部の絲竹の十人をして五日に一は**允**に詣らしめ以て其の志を娛（たの）しま令め，朝晡（夕）膳を給し，朔望（月の一日と十五日）に牛酒を致し，月ごとに衣服綿絹を給す。入見して則ち幾杖を備え，政治を以て問う。

●契丹の**莫賀弗勿干**は部落萬餘口を帥いて入りて魏に附き，白狼水（大凌河、熱河から朝陽・錦州にを経て東に海に入る）の東に居す。

太祖高皇帝建元二年（庚申，４８０年）

■春，正月，戊戌朔（１日），大赦す。

■司空の**褚淵**を以て司徒と為し，尚書右僕射の**王儉**を左僕射と為す。**淵**は受けず。

■辛丑（４日），**上**は南郊に祀る。

●［**魏の隴西公の琛等の侵攻で戒厳**］魏の隴西公の**琛**等は攻めて馬頭戍を抜き，太守の**劉從**を殺す。乙卯（１８日），詔して內外に纂嚴し，兵を發して魏を拒み，南郡の**王長懋**を征（續は徵）して中軍將軍と為し，石頭に鎮せしむ。

●魏の廣川王の**略**は卒す。

●魏師は鐘離（安徽省淮泗道鳳陽県、現・滁州市鳳陽県）を攻め，徐州刺史の**崔文仲**は撃ちて之を破る。**文仲**は軍主の**崔孝伯**を遣わして淮を渡り，魏の荏眉戍主の**龍得侯**等を攻めしめて，之を殺す。**文仲**は，**祖思**之族人也。

■［魏寇に連動した群蠻の汶陽など侵入］群蠻は山谷に依り阻み，荊、湘、雍、郢、司五州之境と連帯す，魏師の入寇し，官（続は乃）は盡く民丁を發するを聞き，南襄城（寧蠻府の領郡に南襄城・東襄城・中襄城あり）の蠻の**秦遠**は虚に乗じて潼陽（汶陽郡の県、湖北省襄陽道遠安県の北、現・宜昌市遠安県）を寇し，縣令を殺す。司州の蠻は魏兵を引いて平昌を寇し，(8-129p)平昌戍主の**荀元賓**は撃ちて之を破る。北上黄（晉武帝は上黄県を立てる、湖北省襄陽道南漳県、現・襄陽市南漳県）の蠻の**文勉徳**は汶陽を寇し，汶陽太守の**戴元賓**は城を棄てて江陵に奔り，豫章王の**嶷**は中兵參軍の**劉仄緒**を遣わして千人を將して之を討たしめ，當陽（湖北省襄陽道當陽県、現・宜昌市当陽市）に至り，**勉徳**は降を請い，**秦遠**は遁げ去る。

【北魏は壽陽に侵攻】

●［魏の嘉は壽陽に進攻］魏將の**薛道標**は兵を引いて壽陽に趣く，**上**は齊郡太守の**劉懐慰**をして冠軍將軍の**薛淵**の書を作りて以て**道標**を招か使む。魏人は之を聞き，**道標**を召して還らしめ，梁郡の**王嘉**をして之を代ら使む。**懐慰**は，**乗民**（131 巻宋明帝泰始二年）之子也。二月，丁卯朔（１日），**嘉**は**劉昶**と壽陽を寇す。將に戰わんとし，**昶**は四に向いて將士を拜し，流涕して縦横にして，曰く、

「願はくは同じく戮力し，以て仇（続は讎）恥を雪（すす）がん！」

●［垣崇祖は外城を保つを主張］魏は步騎二十萬と號す，豫州刺史の**垣崇祖**は文武を集めて之を議し，外城を治め，肥水を堰きとめ以て自ら固めんと欲す。皆は曰く、

「昔**佛狸**は入寇する（125 巻宋文帝元嘉 27 年）や，南平王の士卒は完く盛にして，數は今の倍，猶ほ郭は大にして守るに難きを以て，退きて內城を保つ。且つ自ら肥水有り，未だ嘗て堰とならざる也，勞して而して益無しを恐れる。」

崇祖は曰く、

「若し外城を棄てれば，虜は必ず之に據り，外に樓櫓を修し，內に長圍を築き，則ち坐して擒と成る矣。郭を守り堰を築くは，是れ吾が諫められざる之の策（最早策は定まり敵を制すに足り諫止できない）也。」

乃ち城の西北に於いて肥水を堰きとめ，堰の北に小城を築き，周りを深い塹と為し，數千人をして之を守ら使め，曰く、

「虜は城小さきを見，一舉に取る可しと以て為す，必ず力を悉くして之を攻め，謀を以て堰を破らんとす。吾は水を縦（はな）ちて之を沖（つ）けば，皆な屍を流さんと為らん矣。」

●［堰を決し魏人を撃退す］魏人は果たして蟻のように附いて小城を攻め，**崇祖**は白紗の帽を著けて，肩輿にて城に上がり，晡の時，堰を決して水を下す。魏の攻城之衆は漂いて塹中に墜ち，人馬の溺死は千を以て數える。魏師は退き走る。

■**謝天蓋**の部曲は**天蓋**を殺して以て降る。

■［齋の戸籍制度改革］宋は孝建より以來，政綱は弛紊し，簿籍は訛謬（かびゅう）（誤り），**上**は黄門郎の曾稽の**虞玩之**等に詔して更に檢定を加えしめ，曰く、

「黄籍（西晋の戸籍）は，民之大紀，國之治端なり。頃（ここのろ）より巧偽は日々に甚しく，何を以て釐革（りかく）（改革）とせん？」

玩之は上表して，以て為す、
「元嘉中は，故の光祿大夫の**傅隆**の年は七十を出で，猶ほ手自ら籍を書き，躬(みずか)ら隱校（実情を調査）を加える。今は治を求め正を取らんと欲すれば，必ず勤めて令長を明らかにするに在り。愚は謂うに宜しく元嘉二十七年の籍を以て正と為し，更に明科を立て，一(いつ)に首悔（自ら悔やんで自首）を聽(ゆる)すべし。迷いて而して返らざれば，制に依りて必ず戮せん。若し虚昧有れば，州縣は同じく科すべし。」
上は之に従う。

■［巴州の設置］**上**は群蠻の數々叛亂を為すを以て，荊、益を分けて巴州を置き以て之を鎮ぜしむ。壬申（６日），(8-131p)三巴校尉（宋明帝は泰始二年三峡険阻にして山蠻寇賊するを以て三巴校尉を立てる、次いで之を省き順帝昇明二年復活）の**明慧昭**を以て巴州刺史と為し，巴東太守を領せしむ。是の時，齊之境内には，州二十三，郡三百九十，縣千四百八十五有り。
■［崔文仲は魏に反撃］乙酉（１９日），**崔文仲**は軍主の**陳靖**を遣わして魏の竹邑（沛県、安徽省淮泗道宿県、現・宿州市埇橋区）を抜き，戍主の**白仲都**を殺す。**崔叔延**は魏の睢陵（睢淮に属す、江蘇省徐海道睢寧県、現・徐州市睢寧県）を破り，淮陽太守の**梁惡**を殺す。
■三月，丁酉朔（１日），侍中の西昌侯の**鸞**を以て鄂州刺史と為す。**鸞**は，**帝**の兄の始安貞王の**道生**之子也，早く孤となり，**帝**の養う所と為り，恩は諸子を過ぎる。
●魏の**劉昶**は雨水の方に降るを以て，表して師を還さんを請い，魏人は之を許す。丙午（１０日），車騎大將軍の**馮熙**を遣わして兵を將いて之を迎えしめる。
●夏，四月，辛巳（１６日），**魏主**は白登山（雲中県の境にあり、山西省雁門道大同県の東、現・大同市運州区城東 20km）に如く。五月，丙申朔（１日），火山（白登山の南に武周山、その東南にあり）に如く。壬寅（７日），平城に還る。
■［建康宮外城の強化］晉より以來，建康宮之外城は唯だ竹籬を設け，而して六門有り。曾(たまたま)白虎樽（晋志に元旦殿庭に置く、樽の蓋上に白虎を刻む、直言する者は樽を開いて酒を飲む）を發(ひら)く者有り，言う、
「白門の三重の闕，竹籬は穿ちて完くならず」
上は其の言に感じ，命じて改めて都の牆を立てしむ。
■［李烏奴の梁州寇を撃退］**李烏奴**(りうど)は數々間に乘じて出でて梁州を寇し，豫章王の**嶷**は中兵參軍の**王圖南**を遣わして，益州の兵を將いて劍閣從(よ)り之を掩撃せしむ。梁、南秦の二州刺史の**崔慧景**は梁州の兵を發して白馬に屯し，**圖南**と覆（続に腹とするべし）背より**烏奴**を撃ち，大いに之を破り，**烏奴**は走りて武興を保つ。**慧景**は，**祖思**之族人也。
●秋，七月，辛亥（１７日），**魏主**は火山に如く。
■戊午（２４日），皇太子の**穆妃裴氏**は卒す。詔して南郡王の**長懋**を移して西州に鎮ぜしむ。
●［角城が魏に降り、周辺を平らげる］角城の戍主は城を擧げて魏に降る。秋，八月，丁酉（33-1+1、この月の暦は混乱），魏は徐州刺史の梁郡の**王嘉**を遣わして之を迎えしむ。又た平南將軍郎の**大檀**等三將を遣わして朐城（江蘇省徐海道東海県、現・連雲港市東海県）に出で，將軍の**白吐頭**等二將をして海西（江蘇省徐海道東海県の南、現・連雲港市東海県）に出，將軍の**元泰**等二將をして連口（江蘇省淮揚道漣水県、現・淮安市漣水県）に出，將軍の**封延**等三將をして角城を出，鎮南將軍の**賀羅**をして下蔡（安徽省淮泗道鳳臺県、現・淮南市鳳台県）に出でしめ，同じく入寇す。
●甲辰（40-1+1），**魏主**は方山に如く。戊申（44-1+1），武州山（山西省雁門道繁峙県、現・忻州市繁峙県）の石窟

寺に游ぶ。庚戌（46-1+1），平城に還る。
■**崔慧景**は長史の**裴叔保**を遣わして**李烏奴**を武興に攻めしめ，氐王の**楊文弘**の敗る所と為る。(8-132p)
九月，甲午朔（１日），日に之れ食有り。
■丙午（１３日），柔然は遣使して來聘す。
■汝南太守の**常元真**、龍驤將軍の**胡青苟**は魏に降る。
■（九月）閏月，辛巳（１８日），領軍の**李安民**を遣わして清、泗の諸戍を循行せしめて以て魏に備える。
●［魏は朐山を囲むも撃退］魏の梁郡の**王嘉**は衆十萬を帥いて朐山（朐城の南四里、江蘇省徐海道東海県南 4 里の山、現・連雲港市東海県）を圍み，朐山戍主の**玄元度**は城に嬰りて固守し，青、冀二州刺史の范陽の**盧紹之**は子の**奐**を遣わして兵を將いて之を助けしむ。庚寅（２７日），**元度**は大いに魏師を破る。台は軍主の**崔靈建**等を遣わして萬餘人を將して淮より海に入らしめ，夜に至り，各々は兩に炬を擧げる。魏師は望見し，遁げ去る。

■［何戢の登用］冬，十月，**王儉**は固く選職を解くを請い，之を許す。**儉**に侍中を加え，**太子**の詹事の**何戢**を以て選を領せしむ。**上**は**戢**の資の重きを以て，常待を加えんと欲し，**褚淵**は曰く、
「聖旨は每に以て蟬の冕（冠）は宜しく多きに過ぎるべからず。臣は**王儉**と既に已に左珥（耳飾り、差し挟む、漢以来待中・常待は皆左珥す、令僕と列曹尚書とを八座となす）す，若し復た**戢**を加えれば，則ち八座には遂に三貂有り。若し驍、游を以て帖（官を加える）すれば，亦た少なからず（その官職の数已に多し）と為さん。」
乃ち**戢**を以て吏部尚書と為し，驍騎將軍を加える。
■甲辰（１２日），沙州刺史の**楊廣香**を以て西秦州刺史と為し，又た其の子の**炅**を以て武都太守と為す。
●丁未（１５日），魏は昌黎王の**馮熙**を以て西道都督と為し，征南將軍の**桓誕**と義陽に出で，鎮南將軍の**賀羅**をして鐘離に出で，同じく入寇せしむ。
■●［淮北の四州の民は江南を懐かしむ］淮北の四州の民（133 巻宋明帝泰始三年に魏に入る）は魏に屬するを樂しまず，常に江南に歸るを思い，**上**は多く間諜を遣わして之を誘う。是に於いて，徐州の民の**桓標之**、兗州の民の**徐猛子**等は所在に蜂起して寇盜と為り，衆を聚めて伍固を保ち，**司馬朗之**を推して主と為す。魏は淮陽王の**尉元**、平南將軍の**薛虎子**等を遣わして之を討たしむ。
■［囚人の疾病を蒸し殺すを禁止］十一月，戊寅（１６日），丹陽尹の**王僧虔**は上言す、
「郡縣の獄は相承（相伝）けて湯に上りて（疫病対策で蒸すのが昂じて）囚を殺す有り，名（目）は疾を救うと為せども，實は冤（濡れ衣）暴を行う。豈に死生の大命にして，而して潛かに下邑に制す有らんや！愚謂うに囚の病は必ず先ず郡に刺し（病気の囚人の姓名を報告する），職司（刑務官）と醫とは對して共に診驗するを求め，遠縣の家人は視るを省き，然る後に處（処方して）治すべし。」
上は之に從う。
■戊子（２６日），**楊難當**之孫の**後起**を以て北秦州刺史、武都王と為し，武興に鎮ぜしむ。
■［劉祥は褚淵を批判して左遷され死す］十二月，戊戌（７日），司空の**褚淵**を以て司徒と為す。**淵**は入朝し，腰の扇（摺疊扇という）を以て日を障げ，征虜功曹の**劉祥**は側從り過ぎ，曰く、(8-133p)
「此くの如き擧止を作して，面のあたり人を見るを羞じ，扇障は何んの益あるや！」
淵は曰く、
「寒士は不遜なり！」

祥は曰く、
「**袁**（粲）、**劉**（秉）を殺す能わず，安んぞ寒士を免かるるを得んや！」
祥は，**穆之**（宋朝の左命の元臣、続に、祥は是を以て罪を斉に得たるは厥の祖を辱むる無しと為す可けんや）之孫也。**祥**は文學を好み，而して性韻剛疏，《宋書》を撰し，禪代（禅譲代替わり）を譏（そしり）斥す。**王倫**は密かに以て聞す，坐して廣州に徙されて而して卒す。
■［太子の前での酔っての言い合い］**太子**は朝臣と（東宮の）玄圃に於いて宴し，右衛率の**沈文季**と**褚淵**は語りて相い失い，**文季**は怒りて曰く、
「**淵**は自ら忠臣と謂う，知らず、死する之日に何の面目ありてか宋の明帝に見みえる！」
太子は笑いて曰く、
「**沈**は醉いに率（従）うかな矣」
■壬子（２１日），豫章王の**嶷**を以て中書監、司空、揚州刺史と為し，臨川王の**映**を以て都督荊、雍等九州諸軍事、荊州刺史と為す。
●［魏の王睿の優遇］是の歳，魏の尚書令の**王睿**は爵を中山王に進め，鎮東大將軍を加えられる。王官二十二人を置き，中書侍郎の**鄭羲**を以て傅と為し，郎中令以下は皆な當時の名士なり。又た**睿**の妻の丁氏を拝して妃と為す。

太祖高皇帝建元三年（辛酉，４８１年）

■春，正月，皇子の**鋒**を封じて江夏王と為す。
■［魏人の淮陽寇を周盤龍と奉叔父子が撃退］魏人は淮陽を寇し，軍主の**成買**を甬城（角城、下邳の睢陵県、江蘇省徐海道睢寧県、現・徐州市睢寧県）に於いて圍み，**上**は領軍將軍の**李安民**を遣わして都督と為し，軍主の**周盤龍**等と與に之を救わしむ。魏人は淮に緣りて大いに掠め，江北の民は皆な驚いて走り，江を渡り，**成買**は力戰して而して死す。**盤龍**之子の**奉叔**は二百人を以て陳を陷れて深く入り，魏は萬餘騎を以て左右の翼を張り之を圍む。或るひとは**盤龍**に告げて云く、
「**奉叔**は已に沒す」
盤龍は馬を馳せて槊（矛）を奮い，直に魏の陳を突き，向かう所靡（なびく・ただれる）を披る。**奉叔**は已に出でて，復た入りて**盤龍**を求める。父子の兩騎は縈擾（憤激して敵陣を絡み乱す）し，魏の數萬之衆は敢えて當たる者莫し。魏の師は遂に敗れ，殺傷は萬を計る。魏の師は退き，**李安民**等は兵を引いて之を追い，孫溪渚（淮陽の北、清水の濱にあり）に於いて戰い，又た之を破る。
●己卯（１８日），**魏主**は南巡し，司空の**苟頹**は留守をする。丁亥（２６日），**魏主**は中山に至る。
●二月，辛卯朔（１日），魏は大赦す。
■丁酉（７日），游撃將軍の**桓康覆**は淮陽に於いて魏師を敗り，進みて樊諧城を攻め，之を拔く。
●**魏主**は中山より信都に如く。癸卯（１３日），復た中山に如く。庚戌（２０日），還りて，肆州（太平眞君７年設置の州、永安・秀容・雁門の三郡で秀容に治す、山西省雁門道忻県）に至る。
■［魏の沙門の法秀反乱鎮圧］沙門の**法秀**は妖術を以て衆を惑わし，平城に於いて作亂を謀る。**苟頹**は禁兵を帥いて掩を収め，悉く之を擒にす。**魏主**は平城に還り，有司は**法秀**を囚え，加えるに籠頭，鐵鎖を以てし故無く自ら解く。魏人は其の頸骨を穿ちて，之を祝して曰く、
「若し果たして神有れば，當に肉を穿って入らざら令むべし。」

遂に穿ちて以て狗（徇は×）う，三日にして乃ち死す。議者は或は盡く道人を殺さんと欲し，(8-134p)**馮太后**は不可とし，乃ち止む。

■［垣崇祖は魏師を撃退］**垣崇祖**之魏の師を敗る也，魏が復た淮北を寇すを恐れ，乃ち下蔡の戍を淮東に徙す。既に而して魏師は果たして至り，下蔡を攻めんと欲す。其の内に徙るを聞き，其の故城を夷げんと欲す。己酉（１９日?），**崇祖**は兵を引いて淮を渡り魏を撃ち，大いに之を破り，殺して千計りを獲る。

■［南蠻校尉の官を罷ず］晉、宋之際は，荊州刺史は多く南蠻校尉を領せず，別に人を重ねるを以て之に居らしむ。豫章王の**嶷**は荊、湘二州刺史と為り，南蠻を領す。**嶷**は罷め，更に侍中の**王奐**を以て之と為し，**奐**は固く辭して，曰く、

「西土の戎燼（兵火に焼き尽くせられる）之後にして，痍毀復し難し。今復た太府（晋の永嘉の乱以後張氏は命を河西に擅にして都府を太府とす）を割撤し，偏校（南蠻校尉）を制置すれば，崇望は足らず強きを助け，實を語り交々能く相い弊らん。且つ資力は既に分かれ，職司は廣を増し，衆は勞し務めは倍し，文案は滋々煩しく，竊かに以て為すに國計の允（許）に非ずを。」

癸丑（２３日），南蠻校尉の官を罷ず。

●三月，辛酉朔（１日），**魏主**は肆州に如く。己巳（９日），平城に還る。

●［法秀之亂に恩赦］魏の**法秀**之亂は，事は蘭台御史の**張求**等百餘人に連なり，皆な反法を以て，族に當たる。尚書令の**王睿**は首惡を誅し，其の餘黨を宥すを請う。乃ち（続は下）詔す、

「應に五族を誅すべき者は，降して三族と為す。三族の者は，門を誅す。門誅は，其の身に止どめるべし。」

免ずる所は千餘人なり。

●[馮太后の寿陵造営]夏，四月，己亥（１０日），**魏主**は方山に如く。**馮太后**は其の山川を樂しんで，曰く。

「它日は必ず我を是に葬し，必ずしも山陵に祔（合葬）せざる也。」

乃ち太后の為に壽陵を作り，又た永固石室（永固陵、平城北）を山上に建て，以て廟と為さんと欲す。（古墳の石廓室、）

■［李安民の救援遅れで桓標之滅亡］**桓標之**等は衆數萬有り，險を寨ぎて援を求める。庚子（１１日），**李安民**に詔して諸將を督して往きて之を迎えしめ，又た兗州刺史の**周山圖**をして淮より清に入り，道を倍して應接せしむ。淮北の民の**桓磊磈**は抱犢固（蘭陵郡承県、山東省済寧道嶧県の北、現・棗荘市嶧城区）に於いて魏師を破る。**李安民**は赴き救うこと遅れて留まり，**標之**等は皆な魏の滅ぼす所と為り，餘の衆で南歸を得る者は尚ほ數千家なり。魏人は亦た三萬餘口を掠めて平城に歸る。

●魏の任城康王の**雲**は卒す。五月，壬戌（３日），鄧至王の**像舒**は遣使して魏に入貢す。鄧至（白水羌の地名から鄧至、街亭以東平武以西、汶嶺以北宕昌以南、鄧艾が至る所、甘肅省渭川道文県の西、現・隴南市文県）の者は，羌之別種なり，國は宕昌（甘肅省蘭山道岷県、現・隴南市宕昌県）之南にある。

■六月，壬子（２４日），大赦す。

●［魏の中山宣王の王睿は卒す］甲辰（１６日?），魏の中山宣王の**王睿**は卒す。**睿**は疾病し，**太皇太后**、**魏主**は累々（続は屢々）其の家に至りて疾を視る。卒するに及び，太宰を贈り，平城の南に廟を立てる。

文士は**睿**の為に哀詩（黄鳥から起こる）を及び誄（しのびごと、弔辞）を作る者は百餘人，葬るに及び，自ら親姻、舊の義を稱し，(8-135p)縗絰（喪服）して哭送する者は千餘人。**魏主**は**睿**の子の中散大夫の**襲**を以て**睿**に代えて尚書令と為し，吏部曹を領せしむ。

●戊午（３０日），魏は皇叔の**簡**を封じて齊郡王と為し，**猛**を安豐王と為す。

■秋，七月，己未朔（１日），日に之食有り。

■［車僧朗を魏に遣わし、齊を皮肉る］**上**は後軍參軍の**車僧朗**をして魏に使いせしむ。。甲子（６日），**僧朗**は平城に至り，**魏主**は問いて曰く、

「齊は宋を輔して日淺く，何の故か遽かに大位に登るか？」

對えて曰く、

「虞（伝説上の王朝の舜）、夏（王朝の禹）の登庸（登用）は，身は元后に陟（官位が昇る）りて，魏、晉は匡輔し，子孫を貽厥（子孫を残す謀）し，時に宜しく各々異なる耳。」

●辛酉（３日），柔然の別帥の**他稽**は衆を帥いて魏に降る。

●［楊文弘は遣使して降を請う］**楊文弘**は遣使して降を請い（宋順帝昇明元年に魏に降る），詔して復た以て北秦州刺史と為す。是より先，**楊廣香**は卒し，其の衆の半ばは**文弘**に奔り，半ばは梁州に奔る。**文弘**は**楊後起**を遣わして白水に據らしむ。**上**は官爵を以て授けると雖も，而も陰かに晉壽太守の**楊公則**に敕して便を伺いて之を圖ら使む。

■［車僧朗の待遇］宋の升明中，使者の**殷靈誕**、**荀昭先**を遣わして魏に如かしめ，**上**が禪を受けるを聞き，**靈誕**は魏の典客（秦の官、漢武帝太初元年更めて大鴻臚とす。晉は大鴻臚の属官に典客令あり）に謂って曰く、

「宋、魏は好みを通じ，憂患は是れ同じくす。宋は今は滅亡したるに，魏は相い救わず，何んぞ和親を用いるや！」

劉昶の入寇に及び，**靈誕**は**昶**の司馬と為るを請うも，許さず。九月，庚午（１３日），魏は南郊に於いて武を閱（閲兵）し，因りて群臣と宴し，**車僧朗**を**靈誕**の下に置き，**僧朗**は肯えて席に就かず，曰く、

「**靈誕**は昔は宋使為り，今は齊民と為る。**魏主**に禮を以て處せ見れんを乞う。」

靈誕は遂に相い與に忿して詈（罵）る。**劉昶**は宋の降人の**解奉君**に賂して會に於いて**僧朗**を刺殺せしめ，魏人は**奉君**を收め，之を誅す。**僧朗**之喪を厚く送り，**靈誕**等を放ちて南歸せしむ。**世祖**の即位に及び，**昭先**は具に**靈誕**之語を以て啟聞し，**靈誕**は坐して下獄されて死す。

■［柔然と齊との同盟］辛未（１４日），**柔然主**は遣使して來聘し，**上**に書を與え，**上**を謂って「足下」と為し、自稱して「吾」と曰く、**上**に師子皮の褲褶（胡服）を遣わして，約して共に魏を伐たんとす。

●［薛虎子は屯田強化で名声］魏の**尉元**、**薛虎子**は五固に克ち，**司馬朗之**を斬り，東南諸州（淮北の四州）は皆な平らぐ。**尉元**は入りて侍中、都曹尚書と為り，**薛虎子**は彭城の鎮將と為り，徐州刺史に遷る。時に州鎮の戍兵は，資絹自ら隨え，公庫に入れず。**虎子**は上表して，以て為す、

「國家が江東を取らんと欲せば，先ず須らく彭城に穀を積むべし。切（続は竊）に惟うに在鎮之兵は，數萬を減ぜず，資糧之絹は，人ごとに十二匹。用度は準無く，未だ代下（更替）に及ばすして，饑寒を免れず，公私は費を損す。今徐州の良田は十萬餘頃なり，水陸は肥沃にして，清、汴は通じ流れ，以て溉灌するに足る。若し兵絹を以て牛を市えば，萬頭を得る可く，(8-136p)屯田を興置し，一歲之中には，且く官食を給すべし。半兵は殖に芸し，餘兵は戍に屯す，且つ耕し且つ守れば，邊を捍ぐを妨げず。

一年之收は，十倍之絹に過ぎる。暫時之耕は，數載之食に充つるに足る。後に於いて兵資の皆な公庫に貯えれば，五稔之後は，穀帛は俱に溢れ，直に戍卒は豐飽するのみに非ず，亦た敵を呑むの之勢有り。」
魏人は之に從う。**虎子**は政を為すに惠愛有り，兵民は之に懷く。會々沛郡太守の**邵安**、下邳太守の**張攀**は贓污を以て**虎子**の案ずる所と為り，各々は子を遣わして上書し，與に、
「**虎子**は江南に通じる」
と告げ，**魏主**は曰く、
「**虎子**は必らず然からず」
と、推按するに，果たして虛なりて，詔して**安**、**攀**には皆な死を賜い，二子は各々鞭一百とす。
■吐谷渾王の**拾寅**は卒し，世子の**度易侯**は立つ。冬，十月，戊子朔（１日），**度易侯**を以て西秦、河二州刺史、河南王と為す。
●［**魏の新律を更定**］魏の中書令の**高閭**等は更めて新律を定めて成り，凡そ八百三十二章なり。門房之誅は十有六，大辟は二百三十五，雜刑は三百七十七なり。
●［**高昌の跡継ぎ争いなど**］初め，高昌王（伯周は始めて王を称す）の**闞伯周**は卒し，子の**義成**は立つ。是の歳，其の從兄の**首歸**は**義成**を殺して自立す。高車王の**可至羅**（阿伏至羅とすべし）は**首歸**の兄弟を殺し，敦煌の**張明**を以て高昌王と為す。國人は**明**を殺し，**馬儒**を立てて王と為す。

太祖高皇帝建元四年（壬戌，四八二年）

■春，正月，壬戌（７日），詔して學生二百人を置き，中書令の**張緒**を以て國子祭酒（晉武帝咸寧四年初めて國子学を立て國子祭酒を置く）と為す。
●甲戌（１９日），魏は大赦す。
■［**斉の太祖死す、太子の行動**］三月，庚申（６日），**上**は司徒の**褚淵**、尚書左僕射の**王儉**を召して遺詔を受けて太子を輔けしむ。壬戌（８日），臨光殿に於いて殂す（５６歳）。**太子**は即位し，大赦す。**高帝**は沉深にして大量有り，博學にして文を能くす。性は清儉なり，主衣（供御の衣服を掌る、禁中に主衣庫あり）の中には玉導有りて，**上**は中書に敕して曰く、
「此を留めば正に是れ病源を興長せん！」
即ち命じて擊碎せしむ。仍ほ何の異物有るかを案檢（続は檢按）し，皆な此の例に隨う。毎に曰う、
「我の治天下を十年せ使めれば，當に黃金と土と同價にせ使むべし。」
■［**即位後の人事**］乙丑（１１日），**褚淵**を以て尚書の事を錄せしめ，**王儉**を侍中、尚書令と為し，車騎將軍の**張敬兒**を開府儀同三司とす。丁卯（１３日），前將軍の**王奐**を以て尚書左僕射と為す。庚午（１６日），豫章王の**嶷**を以て太尉と為す。
●［**虎狼飼育の中止**］庚辰（２６日），**魏主**は虎圈に臨み，詔して曰く、
「虎狼は猛暴にして，取捕之日は，毎に傷害多し。既に益する所無く，損費は良に多く，今よりは復た捕貢する勿かれ。」
■夏，四月，庚寅（６日），大行に謚を上りて**高皇帝**と曰い，廟號を**太祖**とす。丙午（２２日），泰安陵（江蘇省蘇常道武進県、丹陽県胡桥乡吴家村、大型正方形墓冢，军长 30 米，宽 28 米，高 8 米）に葬す。
■［**諸王の配置**］辛卯（７日?），**穆妃**（建元二年太子妃裴氏卒）に追尊して**皇后**と為す。六月，甲申朔（１日），南郡王の**長懋**を立てて皇太子と為す。丙申（１３日），(8-136p) 太子妃の**王氏**を立てる。**妃**（王韻之

の孫）は，琅邪の人也。皇子の聞喜公の**子良**を封じて竟陵王と為し，臨汝公の**子卿**を廬陵王と為し，應城公の**子敬**を安陸王と為し，江陵公の**子懋**を晉安王と為し，枝江公の**子隆**を隨郡王と為し，**子真**の建安王と為し，皇孫の**昭業**を南郡王と為す。

■司徒の**褚淵**は疾にて寢ね，自ら表して位を遜し，**世祖**（武皇帝）は許さず，**淵**は固く懇切に請い，癸卯（２０日），**淵**を以て司空と為し，驃騎將軍を領せしむ。侍中、錄尚書は故の如し。

秋，七月，魏は州郡五萬人を發して靈丘の道（代郡の靈丘から南の大山を越えて中山に至）を治めしむ。

■［江謐に死を賜る］吏部尚書の濟陽の**江謐**は，性は諂躁，**太祖**の殂するや，**謐**は顧命に豫からざるを恨む。**上**は即位し，**謐**は又た官を遷さず。此くを以て怨望し、誹謗す。**上**の不豫（殂）に會い，**謐**は豫章王の**嶷**に詣りて間を請いて，曰く、

「至尊（陛下）は起疾（全快する病）に非らずして東宮は又た才に非ず，公は今何の計を作さんと欲するか？」

上は雲（続は之）を知り，御史中丞の**沈沖**をして**謐**の前後の罪惡を奏さ使め，（八月）庚寅（８日），**謐**に死を賜る。

■［褚淵卒す］（八月）癸卯（２１日），南康の文簡公の**褚淵**は卒し，世子の侍中の**賁**は其の父の節を失うを恥じ，服除くも，遂に仕えず，爵を以て其の弟の**蓁**に讓り，墓下に終身屏居す。九月，丁巳（６日），國哀れむ（高帝の殂）を以て國子學を罷む。

●［氐王の楊文弘の跡目争い］氐王の**楊文弘**は卒す。諸子は皆な幼く，乃ち兄の子の**後起**を以て嗣と為す。九月（月ダブリ），辛酉（１０日），魏は**後起**を以て武都王と為し，**文弘**の子の**集始**を白水（武都郡建威県、甘肅省渭川道武都県、現・隴南市武都区）太守と為す。既にして而して**集始**は自ら立って王と為り，**後起**は擊ちて之を破る。

●［魏の荊州刺史の李崇の政治］魏は荊州の巴、氐の擾亂するを以て，鎮西大將軍の**李崇**を以て荊州刺史（世祖秦延五年に荊州を上洛に置き、上洛・上庸・魏興などの郡を領す）と為す。**崇**は，**顯祖**之舅の子也。將に鎮に之かんとするや，敕して陝（魏收の地形志に太和十一年に陝州を置きと、正しこの年は六年で一考すべし）、秦二州の兵を發して之に送らんとし，**崇**は辭して曰く、

「邊人が和を失うは，本から刺史を怨むなり。今詔を奉じて之に代われば，自然に安靖となる。但だ一詔を須いて而して已む，兵を發して自ら防ぐを煩わさず，之れをして懼れを懷かさ使む也。」

魏朝は之に從う。**崇**は遂に輕く數十騎を將いて馳せて上洛に至り，詔を宣して慰渝（続は諭）し，民夷は貼然（穏やか）たり。**崇**は邊戍に命じて齊人を掠め得る者を悉く之に還さしめ，是に由りて齊人も亦た其の生口二百許りの人を還し，二境は交わり和して，復た烽燧之警無し。之久しくして，兗州刺史に徙る。

■［李崇の樓鼓警報の効果大］兗土は舊から劫盜多く，**崇**は命じて村に一樓を置き，樓は皆な鼓を懸けしむ，盜之發する處は，之を亂れ擊つ。旁村の始めて聞く者は，一擊を以て節と為し，次二，次三，俄頃之間に，聲は百里に布く。皆な人を發して險要を守る。是に由りて盜の發すれば擒獲せざるは無し。其の後諸州は皆な之に效うは，**崇**より始まる也。**(8-138p)**

■辛未（２０日），征南將軍の**王僧虔**を以て左光祿大夫、開府儀同三司と為し，尚書右僕射の**王奐**を以て湘州刺史と為す。

■［景素の名誉回復と改葬］宋の故の建平王の**景素**（劉景素）の主簿の**何昌禹**（続は禹にウ冠）、記室の**王摛**及び舉ぐる所の秀才の**劉璡**は，前後して上書して**景素**の德の美なるを陳じ，之の為に冤（134 巻宋の蒼梧王元徽四年）を訟える。冬，十月，辛丑（２０日），詔して士禮を以て舊塋に還葬するを聽す。**璡**は，**瓛**之弟也。

●十一月，魏の**高祖**は將に親ら七廟を祀らんとす，有司に命じて儀を具え，古制に法依して牲牢、器服及び樂章を備える。是れより四時の常祀は皆な之を舉（続は親）ぐ。

世祖武皇帝上之上 太祖高皇帝永明元年（癸亥，四八三年）

■春，正月，辛亥（２日），**上**は南郊に祀り，大赦し，改元す。

■［辺境の田秩復活］詔して邊境の寧晏なるを以て，治民之官に，普く田秩を復す。（宋の文帝の元嘉 27 年北虜によりて俸禄を減ず。淮南太守諸葛闡は俸禄を減じて内の百官に比すを求め、諸州の郡県丞尉全て減じる。明帝の時軍旅やまず、府庫は空荷なり、内外の百官全て俸禄を断つ。俸禄無ければ、賄賂が横行し、政治は不安定になる）

■［豫章王の嶷の密謀］太尉の豫章王の**嶷**を以て太子の太傅を領せしむ。**嶷**は朝務に參ぜず，而して常に密かに謀畫を獻じ，**上**は多く之に從う。

■壬戌（１３日），皇弟の**鋭**を立てて以て南平王と為し，**鏗**を宜都王と為し，皇子の**子明**を武昌王と為し，**子罕**を南海王と為す。

■二月，辛巳（２日），征虜將軍の**楊炅**を以て沙州刺史、陰平王と為す。

■辛丑（２２日），宕昌王の**梁彌機**を以て河、涼二州刺史と為し，鄧至王の**像舒**を西涼州刺史と為す。

■［宋の官僚の任期三年］宋の末，治民之官の六年は久しきに過ぎるを以て，乃ち三年を以て斷つと為し，之を小滿と謂う。而れども遷換は去來（行きつ戻りつ）し，又た三年之制に依る能わず。三月，癸丑（４日），詔して、

「今より一に小滿を以て限りと為す。」

■［天文の度を失う］有司は天文の度を失うを以て，之を禳わんを請い。**上**は曰く：

「天に應じて實を以てし文を以てせず。我は己に克ち治を求め，惠政の隆せんを思う；若し災眚（まけ、目の病気）我に在れば，之を禳うとも何の益あるや！」

■［袁粲、劉秉、沈攸之の名誉回復］夏，四月，壬午（４日），詔す、

「**袁粲、劉秉、沈攸之**，末節は終わらずと雖も，而して始めの誠は靈（続は録）す可し。」

皆な命じて禮を以て改葬せしむ。

■［太祖と太子の仲は険悪］**上**之太子為る也，自ら年長じ，**太祖**と同じく大業を創する（諸軍事行動の一翼を担った）を以て，朝事の大小は，率ね皆な專斷し，多く制度に違う。左右の**張景真**を信任し，**景真**は驕侈にして，被服什物は，僭かに乘輿に擬す。內外は之を畏れ，敢えて言う者莫し。司空咨議（咨議參軍）の**荀伯玉**，素より**太祖**の親厚き所と為り，歎じて曰く、

「**太子**の為す所，官（天子）は終に知らず，豈に死を畏れて，官の耳目を蔽うを得るや！我は啟聞せずんば，誰か當に啟する者をあるや！」(8-139p)

太子が（永安・泰安、武進にあり）陵を拜するに因りて，密かに以て**太祖**に啟す。**太祖**は怒り，命じて**東宮**を檢校せしむ。

■［太子が陵を拝すに太祖は怒る］**太子**は陵を拜して還り，方山（建康城の東北、江蘇省金陵道江寧県湖孰の界にあり、現・南京市江寧区）に至り，晚，將に舟に泊まらんとし，豫章王の**嶷**は東府より（名馬の）飛燕に乘り東に**太子**を迎え，**上**の怒り之意を以て告げる。**太子**は夜歸り，宮に入り，**太祖**は亦た門籥を停めて之を待つ。明くる日，**太祖**は南郡王の**長懋**、聞喜公の**子良**をして敕を宣して詰責せしめ，並（続は幷）びて**景真**の罪狀を以て示し，**太子**の令を以て**景真**を收め，之を殺さ使む。**太子**は憂懼し，疾と稱す。

■［王敬則の取りなしの宴会開催］月餘にして，**太祖**の怒りは解けず。晝に太陽殿に臥し，**王敬則**は直に入り，叩頭して**太祖**に啟して曰く、

「官（天子）は天下に有る日淺く，**太子**は事無くして責め被れ，人情は恐懼す。願はくは官は**東宮**に往きて之を解き釋すべし。」

太祖は言無し。**敬則**は因りて大聲して宣旨し，裝束して**東宮**に往き，又た太官に敕して饌を設けしめ，左右を呼んで輿を索め，**太祖**は了に動く意は無し。**敬則**は衣を索めて**太祖**に被らしめ，乃ち牽強して輿に登らしむ。**太祖**は已むを得ず東宮に至り，諸王を召して玄圃にて宴す。長沙王の**晃**は華蓋を捉え，臨川王の**映**は雉尾扇（雉の尾を編みて乗輿を覆う）を執り，聞喜公の**子良**は酒鎗を持ち，南郡王の**長懋**は酒を行り，**太子**及び豫章王の**嶷**、**王敬則**は自ら酒饌を捧げ，暮に至り，醉い盡くして乃ち還る。

■［太祖と伯玉］**太祖**は**伯玉**の忠藎なるを嘉とし，愈々親信せ見れ，軍國の密事は，多く之に委ね使め，權は朝右を動かす。母の憂に遭いて，宅を去ること二里許り，冠蓋は已に路を塞ぐ。左率（太子の左衛率）の**蕭景先**、侍中の**王晏**は共に之を吊（続は弔）い，旦より暮に至り，始めて前むを得る。出ずる比ほい，饑乏し，氣息は惙然（弱る）として，聲貌に憤悒（憂）の形わる。明くる日，**太祖**に言って曰く、

「臣等の見る所二宮の門庭は，**荀伯玉**の宅に比して雀羅を張る可き矣。」

晏は，**敬弘**（元嘉中に用いられる）之從子也。

■驍騎將軍の**陳胤叔**も，先に亦た**景真**及び**太子**の得失を白す，而して**太子**に語りて皆な云う、

「**伯玉**以て聞す」

太子は是に由りて深く**伯玉**を怨む。

■**太祖**は陰に豫章王の**嶷**を以て**太子**に代える之意有り，而るに**嶷**は**太子**に事えるに愈々謹み，故に**太子**の友愛は衰えず。

■［太子と垣崇祖の微妙な関係］豫州刺史の**垣崇祖**は**太子**に附きて親ならず，會々**崇祖**は魏兵を破る（太祖建元三年），**太祖**は召して朝に還し，之と輿に密かに謀る。**太子**は之を疑い，曲げて禮待を加え，謂って曰く、

「世間の流言は，我は已に豁懷（心を大きくして納得する）す。今より富貴を以て相い付せん。」

崇祖は拜謝す。會々**太祖**の復た**荀伯玉**を遣わし，邊事を以て敕し，旨を受けて夜發し，東宮に辭するを得ざらしむ。**太子**は以為らく誠を盡くさずと，益々之を銜む。

■［太祖の臨終と垣崇祖の誅殺］**太祖**は終りに臨み，**伯玉**を指さして以て**太子**に屬す。**上**は即位し，**崇祖**は五兵尚書に累遷し，**伯玉**は散騎常侍に累遷す。**伯玉**は內に憂懼を懷き，**上**は**伯玉**が**崇祖**と善しを以て，其の變を為すを恐れ，意を加えて之を撫でる。丁亥（９日），(8-140p)下詔して、

「**崇祖**は江北の荒人を招き結び，**伯玉**と作亂せんと欲す」

と誣して，皆な收めて之を殺す

●庚子（２２日），**魏主**は嶧山に如く。壬寅（２４日），宮に還る。

●［文明太后は恂太子を自ら養育］（四月）閏月，癸丑（49-45+1=５日混乱、五月、続も同意見），**魏主**の後宮の平涼の**林氏**は子の**恂**を生み，大赦す。**文明太后**は**恂**を以て當に**太子**と為し，**林氏**に死を賜い，自ら**恂**を撫養す。

●（閏月）五月，戊寅朔（１日），**魏主**は武州山の石窟佛寺（雲崗か）に如く。

■［魏の張敬兒一族を誅殺］車騎將軍の**張敬兒**は夢を信ずるを好む。初め南陽太守と為り，其の妻の**尚**

氏は一手の熱して火の如きの夢みる。雍州と為るに及び，一胛（かいがね、肩甲骨）熱するを夢みる。開府と為るや，半身の熱するを夢みる。**敬兒**は意欲限り無く，當（続は常）に親しい所に謂って曰く、
「吾が妻は復た夢に體を舉げて熱する矣。」
又た自ら言う、
「舊村の社の樹は高く天に至る夢みる」
上は聞きて而して之を惡む。**垣崇祖**は死し，**敬兒**は內に自ら疑い，會々、
「**敬兒**が人を遣わして蠻中に至りて貨易せしむ」
と告げる人有り，**上**は其の異志有るを疑う。會々**上**は華林園に於いて八關（八つの釋戒）齋を設け，朝臣は皆な預り，坐に於いて**敬兒**を收める。**敬兒**は冠貂を脫ぎ地に投げて曰く、
「此の物は我を誤まれり！」
丁酉（33-14+1=２０日），**敬兒**を殺し，其の四子も並（続は幷）ぶ。
■［敬兒の弟の恭兒の憂慮、逃亡、出頭］**敬兒**の弟の**恭兒**は，常に兄の禍の及ぶ所と為るを慮り，冠軍（河南省汝陽道鄧県、現・南陽市鄧州市）に居り，未だ嘗（続による、常は×）て襄陽に出でず，村落は深阻にして，牆垣は重複す。**敬兒**は信（使者）を遣わす毎に，輒ち馬に上り鞬（矢の皮袋）を屬け，然る後に之に見る。**敬兒**の敗問が至り，席捲して蠻に入る。後に自ら出で，**上**は之を恕す。
■［謝超宗も弾かれる］**敬兒**の女は征北咨議參軍の**謝超宗**の子の婦と為り，**超宗**は丹陽尹の**李安民**に謂って曰く、
「『往年は**韓信**を殺し，今年は彭越を殺す。』（漢書の薛公の語、李安民を挑発）尹は何の計を欲するや！」
安民は具に之を啟す。**上**は素より**超宗**の輕慢を惡み，兼御史中丞の**袁彖**をして**超宗**を奏彈せしめ，（六月）丁巳（53-44+1=１０日），收めて廷尉に付けて，越巂に徙し，道にて死を賜う。**彖**の語の刻切ならざるを以て，又た左丞の**王逡之**をして奏彈せ使めて、
「**彖**の輕文略奏し，法を撓め非を容れる」
と，**彖**は坐して官を免ぜられ，禁錮は十年。**超宗**は，**靈運**之孫なり。**彖**は，**顗**（義嘉の乱に死す）之弟子也。
●秋，七月，丁丑（１日），**魏主**及び**太后**は神淵池（魏の太和元年、北苑に永楽遊觀殿を起こし、池を穿つ）に如く。甲申（８日），方山に如く。
■魏は假の員外散騎常侍の頓丘の**李彪**を來聘せ使む。
■［王僧虔の開府の固辞の真意］侍中、左光祿大夫、開府儀同三司の**王僧虔**は開府（去年開府に除す）を固く辭し，兄の子の**儉**に謂って曰く、
「汝は朝に於いて任重く，行々三事（三公）に登らん。我は若し復た此の授有れば，乃ち是は一門に二台司有り，吾は實に懼れる焉。」(8-141p)
累年拜せず，**上**は乃ち之を許す，戊戌（２０日），**僧虔**に特進を加える。**儉**は長梁齋を作り，制度は少し過ぎ，**僧虔**は之を視，悅ばず，竟に戶に入らず。**儉**は即日之を毀す。
■[僧虔は必ず長者と為る]初め，**王弘**は兄弟と集會し，子孫の戲適するに任せる。**僧達**は跳ねて地に下りて虎子と作る。**僧綽**は正坐し，蠟燭の珠を采りて鳳皇と為り，**僧達**は奪い取りて打ち壞し，亦た復た惜しまず。**僧虔**は十二の博棋を累ね，既に墜落せず，亦た重ねて作らず。**弘**は歎じて曰く、
「**僧達**は俊爽なり，當に人に減ぜざるべし，然るに終に吾が家を危うくする（128 巻宋世祖孝建三年に死す）を恐れる。**僧綽**は當に名義を以て美とせ見るべし。**僧虔**は必ず長者と為り，位は公台に至らん」
已に而して皆な其の言うの如しと。

■八月，庚申（１４日），驍騎將軍の**王洪範**（高帝建元元年に出仕）は柔然より還り，經塗（経路行程）は三萬餘里なり。

●［驍騎將軍の劉纘は魏の聘を受ける］冬，十月，丙寅（２１日），驍騎將軍の**劉纘**を遣（続による、遭は×）わして魏に聘（礼を尽くして招く）せしめ，**魏**の主客令（典客令）の**李安世**は之に主たり。魏人は內藏之寶を出だして，賈人をして之を市にて鬻（ひさ）がしむ。**纘**は曰く、

「魏の金玉は大いに賤し，當に山川の出す所に由るべし。」

安世は曰く、

「聖朝は金玉を貴ばず，故に賤しきこと瓦礫と同じ。」

纘は初め多く市（か）わんと欲し，其の言を聞き，內に慚じて而ち止む。**纘**は屢々使を奉じて魏に至り，**馮太后**は遂に之を私に幸す（馮太后が淫縦なるをいう）。

■十二月，乙巳朔（１日），日に之に食有り。

●［魏は同姓婚を禁止］癸丑（９日），魏は始めて同姓の婚を為すを禁じる。

■**王儉**は號を衛將軍に進め，選事を參掌す。

■是の歲，巴州を省く。（高帝建元二年に置く）

●魏の秦州刺史の**於**（+于）**洛侯**は，性は殘酷にして，人を刑するに或（続は必）は腕を斷ち，舌を拔き，四體を分けて懸ける。州を合わせて（全部の州）驚駭し，州民の**王元壽**等は一時に俱に反す。有司は之を劾奏し，**魏主**は遣使して州に至らしめ，**洛侯**が常に人を刑する處に於いてを吏民に宣告し，然る後に之を斬る。齊州刺史の**韓麒麟**は，政を為すに寬を尚（たっと）び，從事の**劉普慶**、**麒麟**に說いて曰く、

「公の節は方夏を杖とし，而して誅斬する所無し，何を以て威を示すや！」

麒麟は曰く、

「刑罰は惡を止める所以にして，仁者の已むを得ずして而して之を用う。今民は法を犯さず，又た何を誅する乎？若し必ず斬を斷ちて然る後に以て威を立てる可きならば，當に卿を以て之に應ずべきや！」

普慶は慚懼し而して起（続は退）つ。

令和元年 8 月 27 日	翻訳開始	11679 文字
令和元年 11 月 17 日	修正	20457 文字
令和 2 年 6 月 20 日	完訳完了	23431 文字
令和 3 年 10 月 17 日	書下し官僚	24759 文字